

藤沢市子どもと子育て家庭の 生活実態調査 結果概要

困難を抱える子ども・保護者の状況と
今後必要だと考えられること

2019年8月5日
藤沢市 子育て企画課

調査結果に関する留意点

- 日常的な関わりのなかで把握した子どもや子育て家庭の状況であるため、すべてのケースを代表するものではない
- 網羅的に課題が把握されていない可能性がある
- 必ずしも統計的な裏付けがあるわけではない記述も含まれる

目次

1. 調査の概要 - どのような調査分析をしたのか
2. 調査結果から把握した課題
 - 重層的な困難と世代間連鎖
3. 子どもの状況
 - 生活・学び・つながりへの影響
4. 保護者の状況
 - お金、時間、こころに余裕がなく、孤立
5. 今後必要だと考えられること
 - 子どもの居場所へのニーズ

1. 実態調査の概要

- アンケート調査
(5歳児、小学5年生、中学2年生)
- ヒアリング調査
(市内関連機関32団体、44の個別ケース分析
支援者50名以上へのヒアリング)

1. 調査の概要 — アンケート分析

- アンケート調査結果をもとに、様々な困難を抱える子どもについて以下の3つの視点から分析

1. **経済的な生活困窮の視点** …… 経済的困窮が子どもの育ちや家庭に及ぼす影響とは、気付くためのシグナルとは
2. **ひとり親世帯の視点** …… 世帯に大人が一人のひとり親世帯(2世代同居)の子どもや世帯が抱える課題とは
3. **児童虐待の視点** …… 児童虐待など子育てに課題を抱えるリスクが高いグループの子どもや世帯に気付くためのシグナルとは、どのような課題を抱える傾向にあるのか

1. 調査の概要 — ヒアリング調査・分析

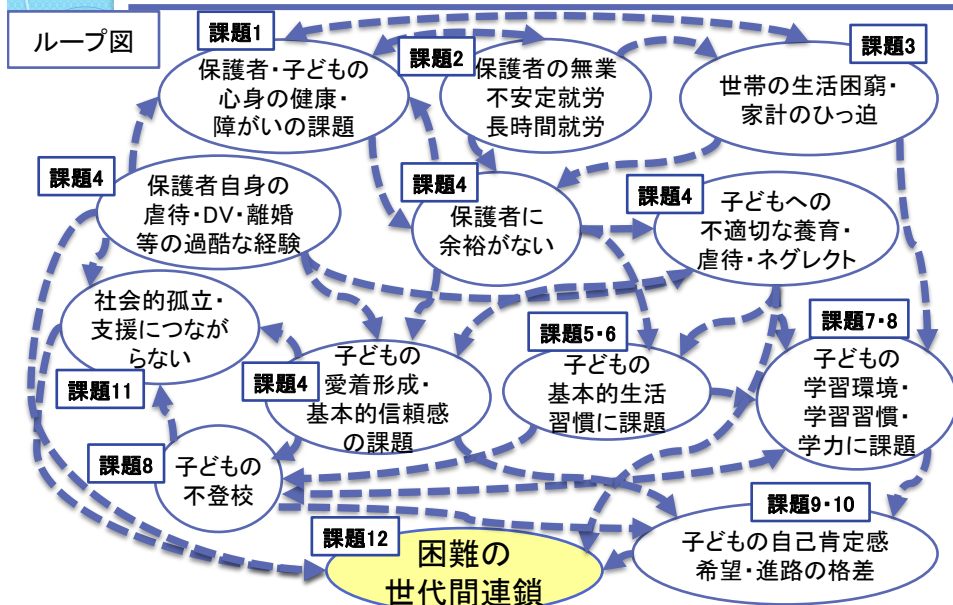
- 実施時期 2018年8～10月
 - 調査対象 子どもや保護者の支援に関連する32団体
 - 分析は44の個別ケースの分析と、支援者へのヒアリング結果の分析から構成
1. **個別ケース分析** …… 特定の気になる子どもと子育て家庭について、世帯構成、健康・生活状況、子どもの学習状況、保護者の就労・経済状況など具体的に把握
 2. **支援者ヒアリング分析** …… 支援活動の概要、子育て家庭や子どもの支援ニーズの変化、日常的な関わりの中で困難なこと、他の支援機関との連携、市の対策として必要なこと

2. 調査結果から把握した課題

現状と課題の概要

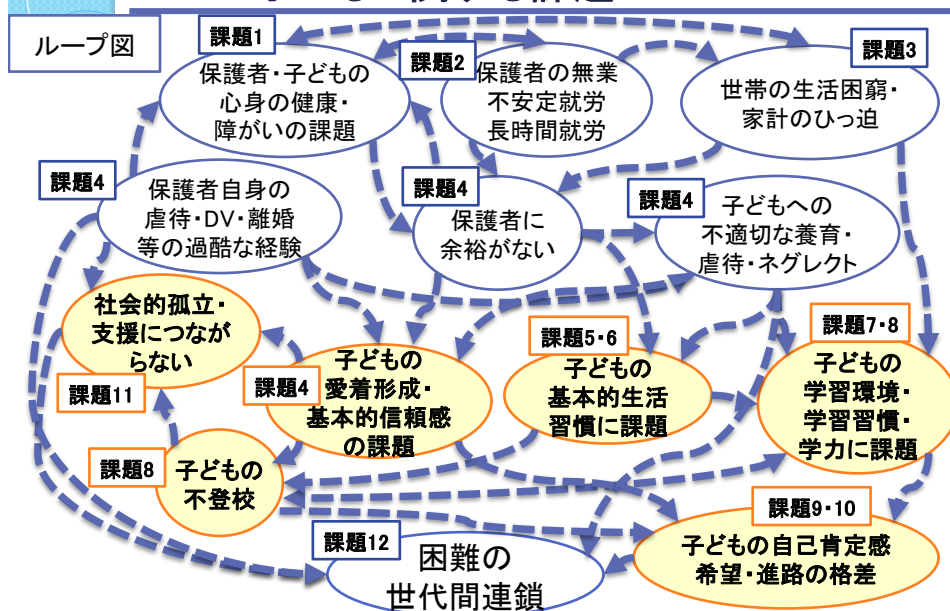
- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 課題1 保護者・子どもの心身の健康 | 課題7 子どもの学習環境と学習習慣 |
| 課題2 保護者の就労状況 | 課題8 学力・学校生活・不登校 |
| 課題3 家計のひっ迫と子どもへの影響 | 課題9 子どもの進路・将来展望 |
| 課題4 親と子の愛着関係・
基本的信頼感 | 課題10 子どもの自己肯定感 |
| 課題5 子どもの基本的な生活習慣 | 課題11 社会的孤立・支援に
つながらない |
| 課題6 子どもの居場所 | 課題12 困難の世代間連鎖 |

2 調査結果から把握した課題 まとめ しんどさ、困難の世代間連鎖

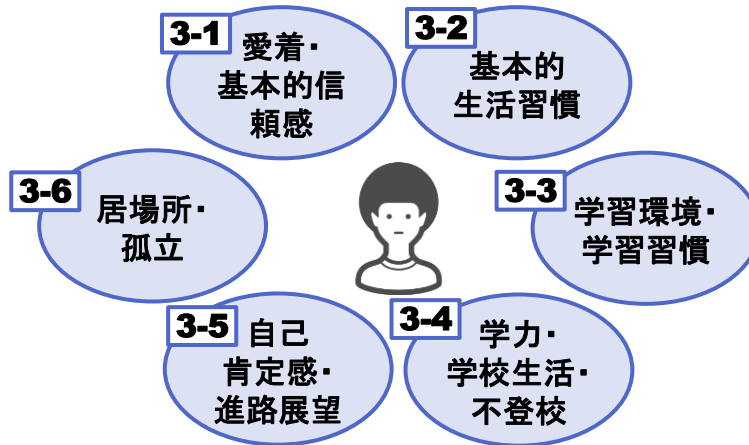


3. 子どもの状況 生活・学び・つながりへの影響

3. 調査結果から把握した課題 子どもに関する課題

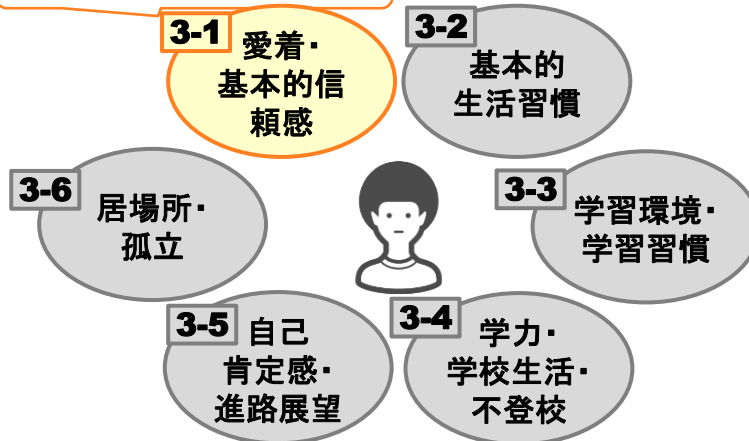


3. 困難を抱える子どもの状況



3-1 親と子の愛着関係・基本的信頼感

- 親子の関わりが希薄、愛着形成に課題
- 対人関係が苦手な傾向



3-1 親と子の愛着関係・基本的信頼感

現状と課題の概要

- 生活に余裕のない保護者が増え、親子のふれあいや関わりが希薄になっているのではないか
- 困難を抱える子どもの保護者に、DVを受けた経験、虐待やネグレクトをした経験を回答した傾向が高い。困窮層の子どもに、家族間の仲がよくないことを悩みと回答した割合が高い
- 気がかりな子どもの背景に、親との愛着形成に課題がみられるなど、親子の関係性に課題を抱える傾向がみられた
- 乳幼児期などに親子の愛着関係を築くことが難しかった子どもの中には、思春期になって対人関係をうまく築けないなどの不安定さが課題となることがあるという意見が聞かれた

キーワードの用語解説



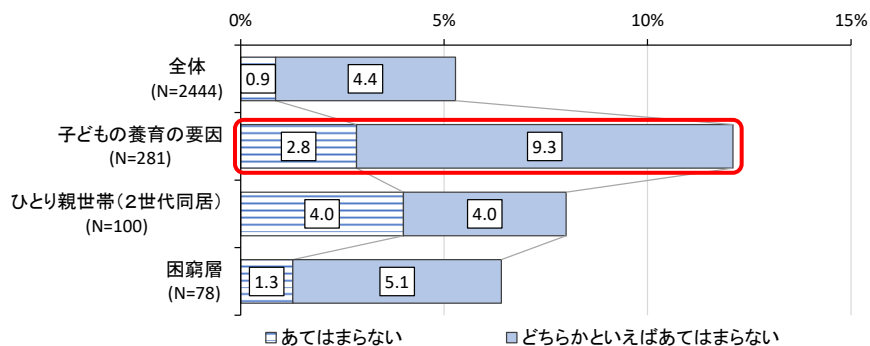
用語解説 愛着関係、基本的信頼感

- 「愛着」とは、子どもが特定の大人に対して持つ情緒的な絆
- 乳幼児期は、母親や父親等、身近な特定の大人から、愛されること、大切にされることで、情緒的な絆が深まり、愛着関係を形成していく
- 子どもが示す欲求に身近な大人が応えていくことで、子どもは人に対する「基本的な信頼感」を獲得していき、「基本的な信頼感」を拠り所として、徐々に他者との関わりを広げていく
- 「基本的な信頼感」は、就学に向けた周囲との人間関係を構築する力、社会性の発達につながっていく

3-1 子どもの状況 愛着関係・基本的信頼感



子どもとその日の出来事、友だちのことについて話をする(5歳児保護者)

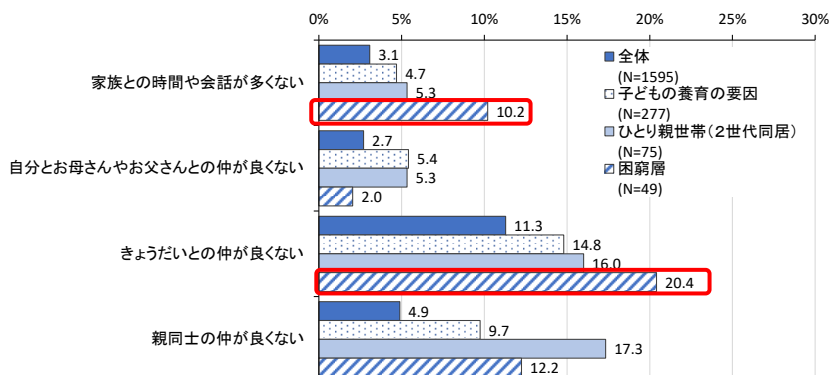


- 子どもの養育の要因層の5歳児保護者は、子どもとその日の出来事などの会話を
する傾向が相対的に低い

3-1 子どもの状況 家族に関する悩み



自分や家族のことなどで、心配なことや困っていること(小学5年生)

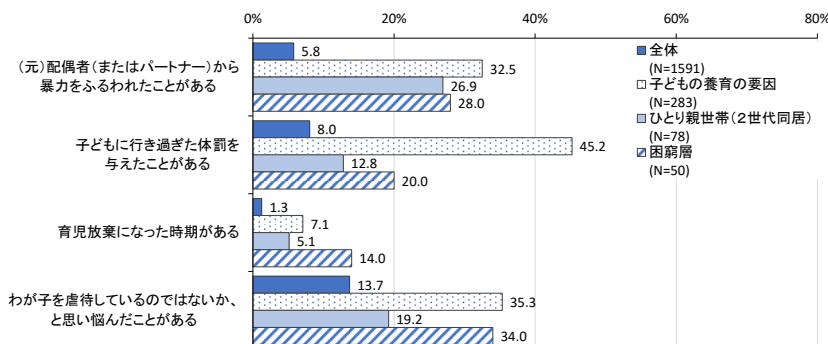


- 困窮層に該当する小学5年生は、「きょうだいとの仲が良くない」「家族との時間や
会話が多くのない」ことを心配なこと、困っていることと回答した割合が高い

3-1 子どもの状況 虐待等の経験



子どもが生まれてからの経験(小学5年生保護者)



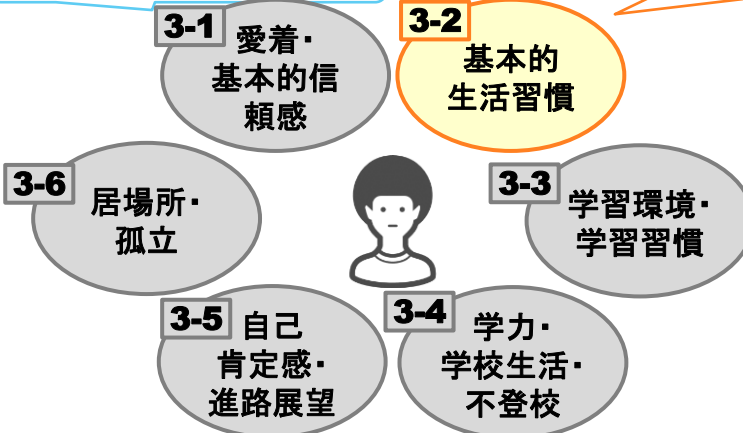
困窮層の保護者は、DV、虐待、ネグレクトの経験を回答した傾向が高い

※子どもの養育の要因層の判定基準であるため、参考値として掲載

3-2 子どもの基本的な生活習慣

- 親子の関わりが希薄、愛着形成に課題
- 対人関係が苦手な傾向

- 食・睡眠・清潔等の基本的な生活習慣に乱れ
- 保護者が不在がちで子どもだけで過ごす



3-2 子どもの基本的な生活習慣

現状と課題の概要

- 子どもの朝食や睡眠、入浴や歯磨きなど、基本的な生活習慣が整わない子どもは増加傾向にある。保護者の障がいや疾病、大人の生活リズムの乱れなど、保護者の生活状況の影響を子どもが受けているのではないかと
- 複雑な家庭状況に育った保護者で、自身の親から家事の仕方を教わることがなかったという例がある
- 子どもの基本的な生活習慣が整わないことから、不登園・不登校、学習習慣の形成等に影響を与えることがあるのではないかと。保護者が夜間の仕事などで家庭を不在にしがちな家庭では、子どもが家事やきょうだいの世話を担うことがあるという意見が聞かれた
- 困難を抱える子どもは、朝食を毎日食べない、毎日同じ時間に寝ていないなど、生活習慣が整っていない傾向がみられる

キーワードの用語解説



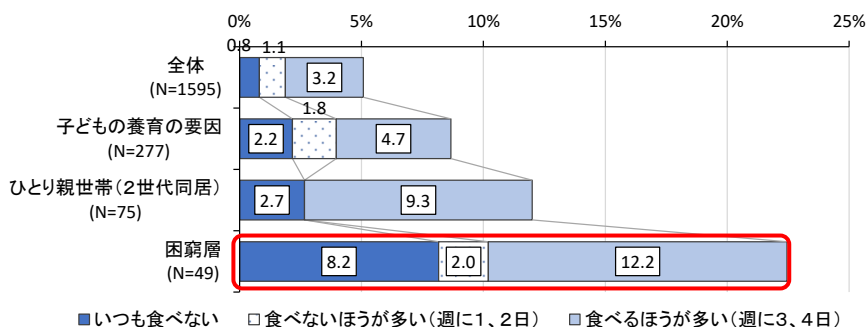
用語解説 基本的な生活習慣

- 日常的に繰り返される生活に必要な行動を、「基本的な生活習慣」とよび、食事、睡眠、排せつ、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどを指す
- 「基本的な生活習慣」の形成は、就学前の時期である幼児期に身に付ける発達課題とされており、自分のことを自分でしようとする気持ちが芽生え、自立心や、自律性が育まれていく
- 保育所保育指針解説(平成30年2月)では、「基本的な生活習慣や態度を身に付けることは、子どもが自分の生活を律し、主体的に生きる基礎となる」とされている

3-2 子どもの基本的な生活習慣



朝ごはんを食べる頻度(毎日は食べない割合・小学5年生)

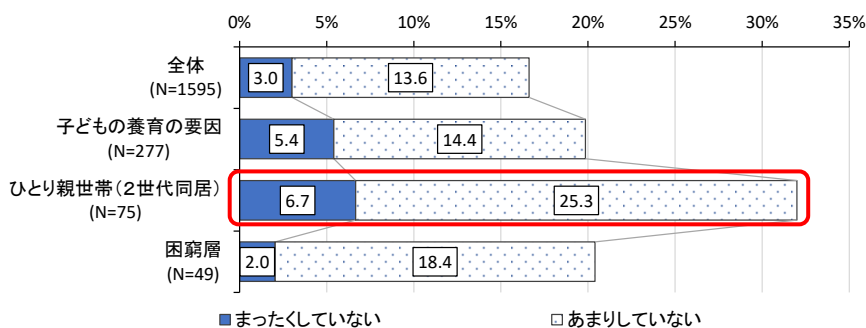


- 朝食を毎日は食べない小学5年生の割合は、困窮層で2割超、ひとり親世帯(2世代同居)で1割超

3-2 子どもの基本的な生活習慣



毎日同じくらいの時間に寝ていない割合(小学5年生)

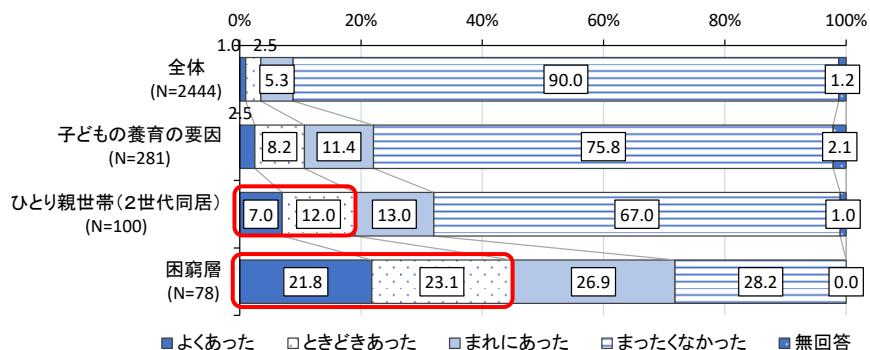


- 毎日同じくらいの時間に寝ていない小学5年生の割合は、ひとり親世帯(2世代同居)で3割超

3-2 子どもの生活 食料を買えない経験



家族が必要とする食料を買えない経験(過去1年・5歳児保護者)

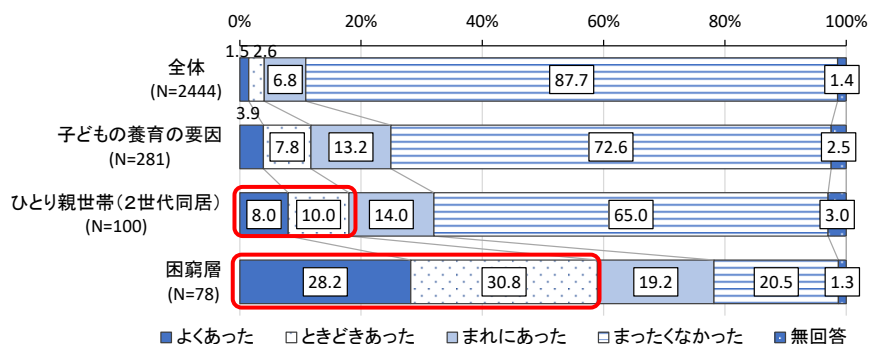


- 困窮層の4割超、ひとり親世帯(2世代同居)の2割が、家族が必要とする食料を買えない経験が「よくあった」「ときどきあった」と回答

3-2 子どもの生活 衣類を買えない経験

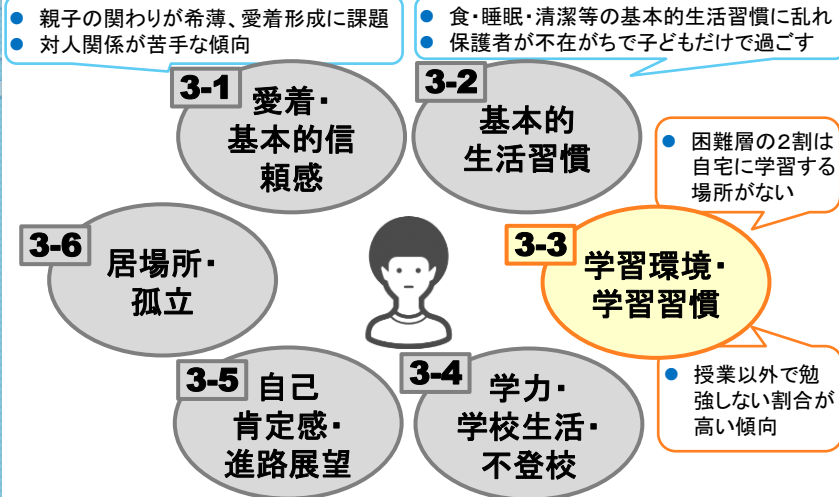


家族が必要とする衣類を買えない経験(過去1年・5歳児保護者)



- 困窮層の6割、ひとり親世帯(2世代同居)の2割が、家族が必要とする衣類を買えない経験が「よくあった」「ときどきあった」と回答

3-3 学習環境と学習習慣



3-3 学習環境と学習習慣

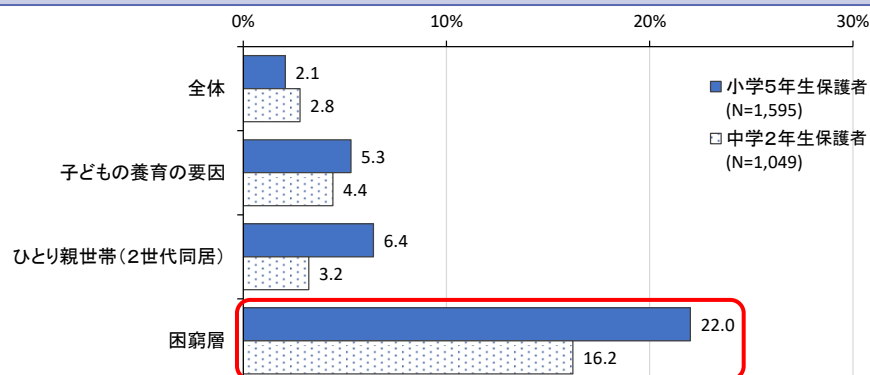
現状と課題の概要

- 困窮層の保護者の約2割が、経済的な理由で子どもが自宅で学習をすることができる場所がないと回答。
- 困難を抱える子どもは、学校の宿題をしていると回答した割合がやや低く、学校の授業以外で勉強しないと回答した割合が高い傾向にある。
- 学習習慣のない子どもの背景として、子どもの学習状況や学歴に対する保護者の意識や関心があまりない、学習をできる環境が家がないなどの家庭環境があることがうかがえた。

3-3 学習環境と学習習慣



経済的理由で、子どもが自宅で学習をすることができる場所がない割合

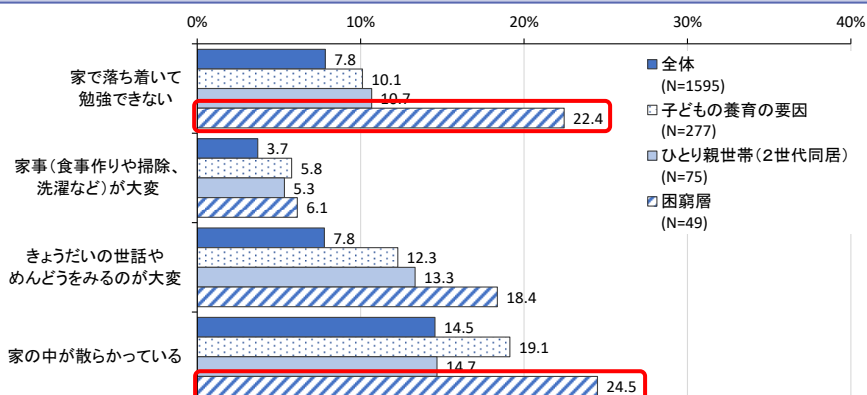


- 困窮層の保護者の約2割が、経済的な理由で子どもが自宅で学習をすることができる場所がないと回答

3-3 子どもの悩み 学習環境



自分や家族のことなどで、心配なことや困っていること(小学5年生)

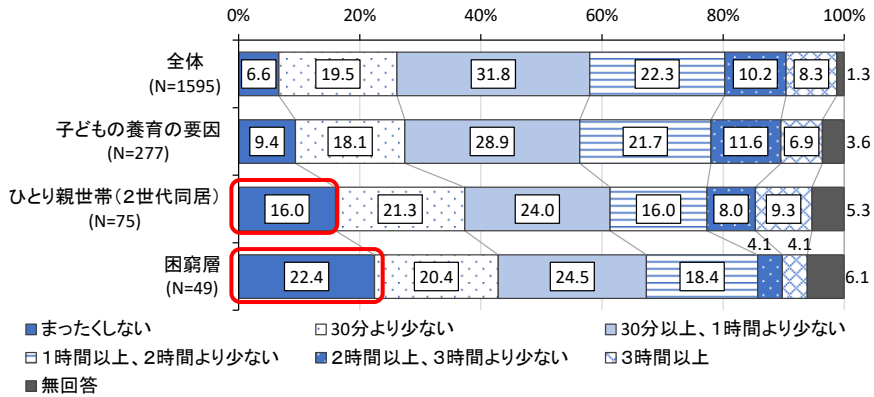


- 困窮層に該当する小学5年生の4人に1人が、「家の中が散らかっている」「家で落ち着いて勉強できない」と回答している

3-3 学習環境と学習習慣



学校の授業以外の平日の勉強時間(小学5年生)



- 平日に学校の授業以外でまったく勉強をしないと回答した小学5年生の割合は、ひとり親世帯(2世代同居)や困窮層で約2割

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校

- 親子の関わりが希薄、愛着形成に課題
- 対人関係が苦手な傾向

- 食・睡眠・清潔等の基本的な生活習慣に乱れ
- 保護者が不在がちで子どもだけで過ごす



3-4

子どもの学力・学校生活・不登校

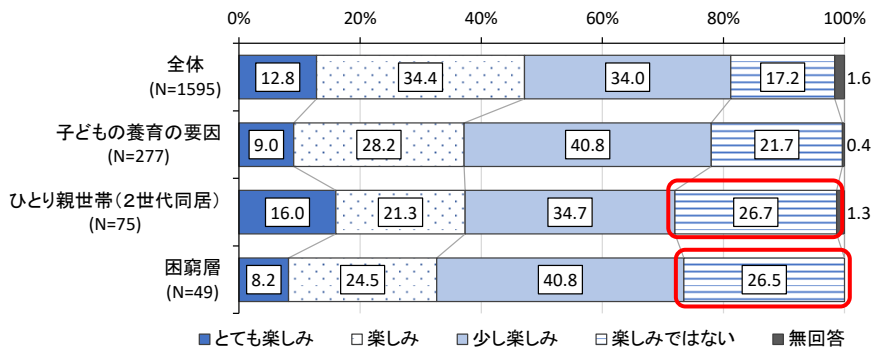
現状と課題の概要

- 困難を抱える子どもが、学校の授業が「楽しみではない」と回答した割合、学校に遅刻する割合や、学校に行きたくないと思った割合は全体と比べ高い傾向
- 学校の授業が「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と回答した小学5年生の約4割は、小学校低学年から授業が分からなかったと回答。困窮層の中学2年生の約半数が学校の授業がわからないと回答
- 体調不良を訴えたり、教室に入れないなどの「登校しぶり」が増加しているのではないかと
- 不登校の背景に、発達障がいがあり集団行動が苦手、学校の勉強についていけない、友達など周囲の人間関係がうまくいかないなどがあるのではないかと。不登校になる子どもの中に、幼いきょうだいの世話、精神疾患や疾病を持つ親の看病、外国籍の親の付き添いなど家族の事情がある例が存在する
- 不登校の子どもを含めて、子どもの居場所や、多様な人と関わる環境が必要という意見が聞かれた

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校



学校生活について（授業） 小学5年生

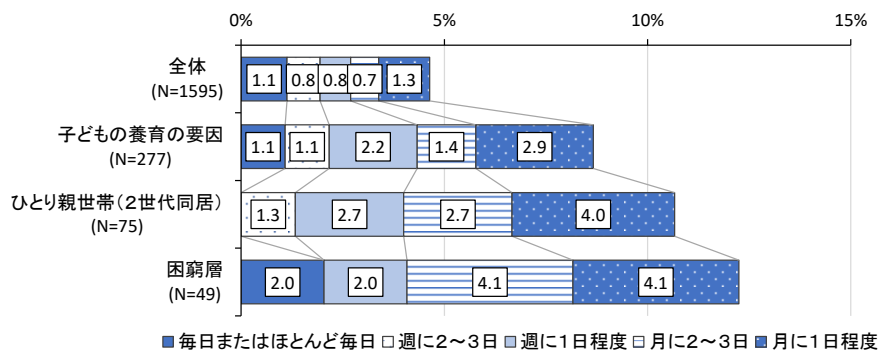


- ひとり親世帯(2世代同居)と困窮層の小学5年生が、学校の授業が「楽しみではない」と回答した割合は3割弱で、全体と比較してやや高い傾向

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に遅刻することがある割合（月1回以上） 小学5年生

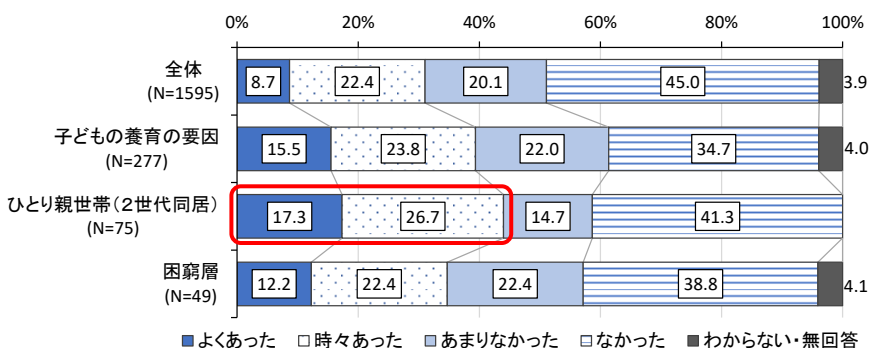


- 月1回以上学校に遅刻することがある小学5年生の割合は、困難を抱える子どものグループの方がやや高い傾向にある

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校



学校に行きたくないと思ったこと 小学5年生

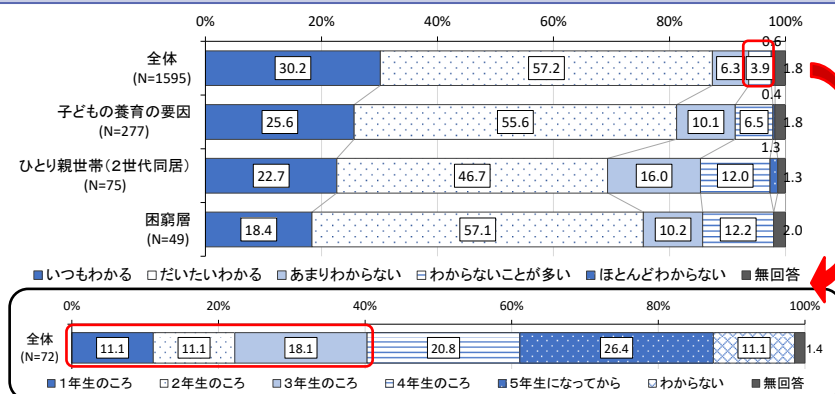


- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生が学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」「時々あった」と回答した割合は約4割

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校



学校の授業がわからないことがあるか／その時期 小学5年生

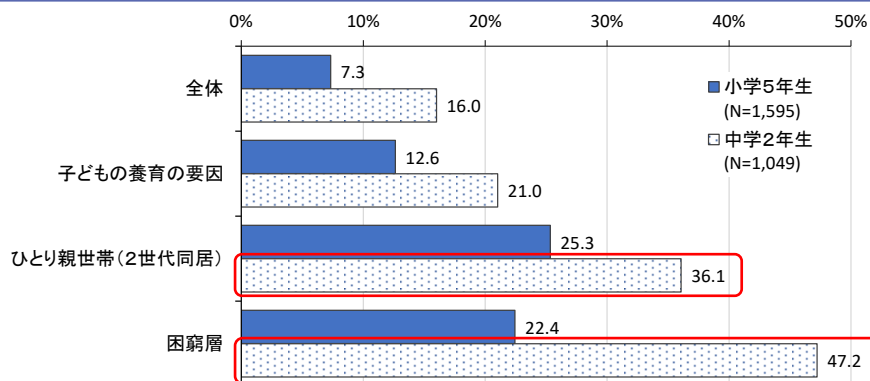


- 学校の授業が「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と回答した小学5年生の4割が、小学校低学年で授業が分からなくなっている。

3-4 子どもの学力・学校生活・不登校



学校で困っていること — 勉強がよくわからない

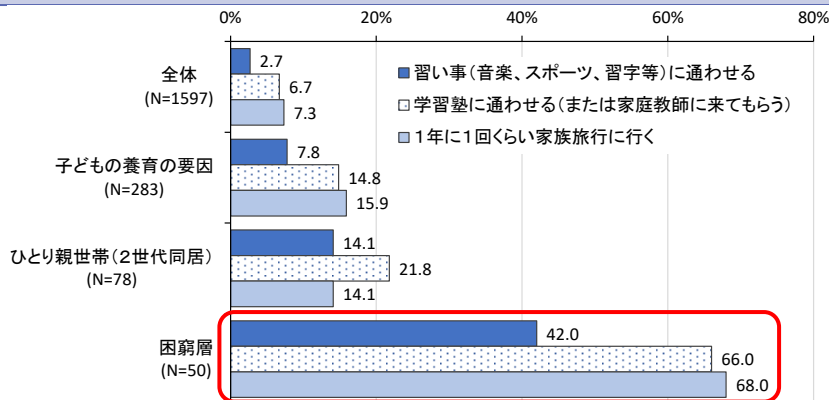


- 困窮層の中学2年生の2人に1人、ひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生の3人に1人が、「勉強がよくわからない」ことが心配で困っていると回答

3-4 子どもの学び・経験



経済的な理由でできないと回答した割合(小学5年生保護者)

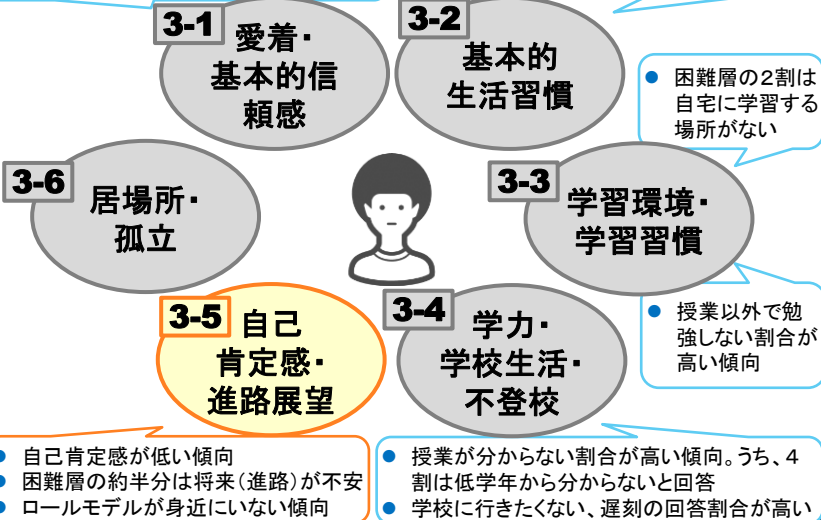


- 困窮層に該当する小学5年生の保護者は、習い事(4割)、学習塾(7割弱)、年1回の家族旅行(7割弱)が経済的な理由で出来ないと回答

3-5 子どもの進路・将来展望

- 親子の関わりが希薄、愛着形成に課題
- 対人関係が苦手な傾向

- 食・睡眠・清潔等の基本的な生活習慣に乱れ
- 保護者が不在がちで子どもだけで過ごす



3-5 子どもの自己肯定感 進路・将来展望

現状と課題の概要

- 困難を抱える子どもが「自分のことが好きだ」「自分は価値のある人間だと思う」などの自己肯定感が相対的に低い傾向にある
- 困窮層の中学2年生が「大卒又はそれ以上」を希望する割合は約2割で、約半分が、将来(進路)のことが不安と回答
- 困窮層の中学2年生の保護者の8割前後が子どもの教育費が悩みで、子どもの進学や受験が心配と回答
- 困難を抱える保護者の中には、不登校、若年出産、外国籍の保護者であることなどの背景があり、中学卒業、高校中退の学歴となっていることがあるのではないかと
- 親が働いていない世帯で、働いて自立するロールモデルが身近にいないことがあるのではないかと

キーワードの用語解説



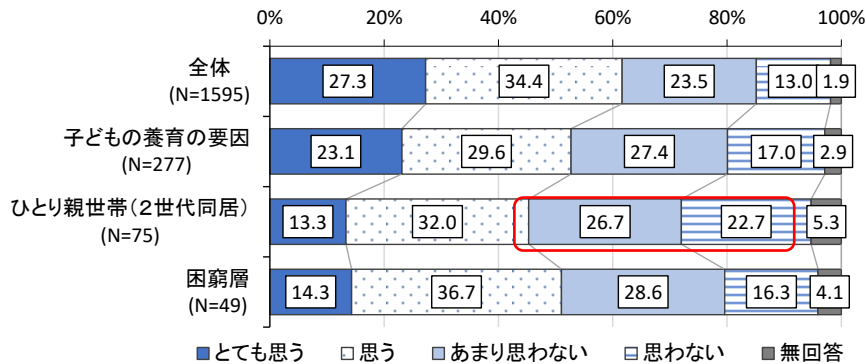
用語解説 自己肯定感

- 教育再生実行会議の第十次提言「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上」(平成29年6月)によると、自己肯定感を以下の二つの側面から捉えられるとされている。
 - ① 勉強やスポーツ等を通じて他者と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれる自己肯定感
 - ② 自らのアイデンティティに目を向け、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる自己肯定感

3-5 子どもの自己肯定感

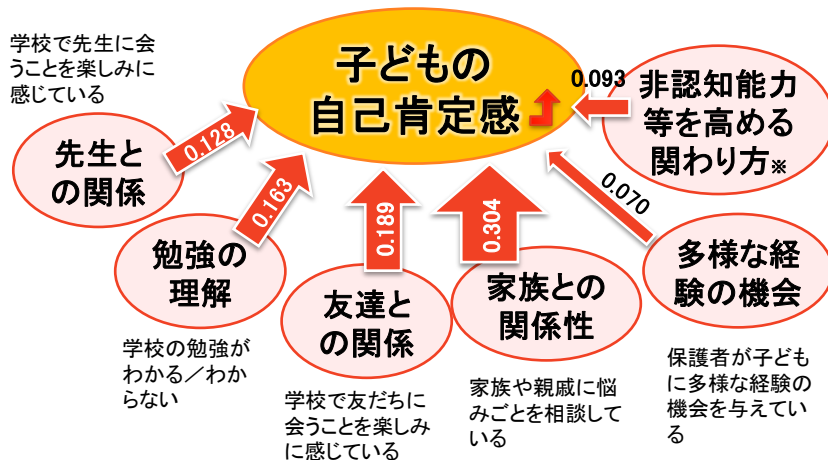


自分は価値のある人間だと思う(小学5年生)



- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生が「自分は価値のある人間だと思う」とは「思わない」「あまり思わない」割合は約5割

3-5 子どもの自己肯定感(小学5年生)



自己肯定感にプラスの影響を与えると思われる要因

(印の数値が大きいほど、自己肯定感との関連性が強いと考えられる要因)

※非認知能力を高める関わり方: 努力することの大切さ・最後までやり抜くことの大切さを子どもに伝えたり、子どもの良いところを褒めるなどして自信を持たせたりする、といった接し方

キーワードの用語解説



用語解説 非認知能力(社会情緒的スキル)

- OECDの「Skills for Social Progress:The Power of Social and Emotional Skills」(2015)によると、非認知能力(社会情動的スキル)とは、長期的目標の達成、他者との協働、感情を管理する能力に関する思考・感情・行動のパターンである。
- 学習などの知識や経験を獲得する認知能力(認知スキル)だけでなく、非認知能力が円滑な個人生活や社会生活を送るために重要であることが示されている。
- 非認知能力は、「スキルがスキルを生む」と表現されており、乳幼児期等の早い段階で能力を育むような教育に注目することが重要である

(参考)自己肯定感に与える要因分析



解説 自己肯定感に与える要因分析

- 小学5年生と中学2年生の自己肯定感の判定に用いた設問は、「自分のことが好きだ」「自分の将来が楽しみだ」「自分は家族に大切にされていると思う」「自分は友だちに好かれていると思う」「不安に感じることはないと思う」「ひとりぼっちに感じることはない」「がんばれば、よい結果が出ると思う」「自分は価値のある人間だと思う」の8項目。
- 8項目について、「とても思う」を3点、「思う」を2点、「あまり思わない」を1点、「思わない」を0点として合計し、0～24点で点数化した(高得点ほど自己肯定感が高い)。
- 自己肯定感への影響を重回帰分析した項目は、1性別、2世帯タイプ(ひとり親/ふたり親)、3生活困難度、4虫歯の有無、5発達に関する診断の有無、6相談先(学校関係を含む大人)、7相談先(家族や親戚)、8相談先(友人)、9先生に会うことが楽しみ、10友達に会うことが楽しみ、11勉強が分からないかどうか、12保護者の関わり方(非認知能力を高める、自信を与える)、13保護者の関わり方(学校や勉強に関する関わり)、14保護者の関わり方(親子の多様な体験の機会)、15保護者の関わり方(生活習慣やルール付)

3-5 子どもの自己肯定感



支援者ヒアリングで把握した“あの子”“あの家庭”

支援を通じた子どもの変化

- 子どもたちの**ありのままを受けとめて寄り添う**ようにスタッフが接し方を変えて、子どもが少しずつ色々なことを話してくれるように変化していった。来たときの挨拶、食事のときの挨拶、手洗い、風呂に入って清潔を保つなど、基本的な生活習慣の部分ができるようになった。大人に対する不信感のようなものが少し払拭されたように感じる。
- 子どもたちの自己肯定感を上げるような声かけ、関わりを心がけた。具体的には、**黙って子どもの話を聞く、否定をしないでまず肯定から入る、見守る、見届けるという関わり**など。少し自信が持てるようになったのか、不登校だったが、中学校に通うようになった。

3-5 子どもの自己肯定感



支援者ヒアリングで把握した“あの子”“あの家庭”

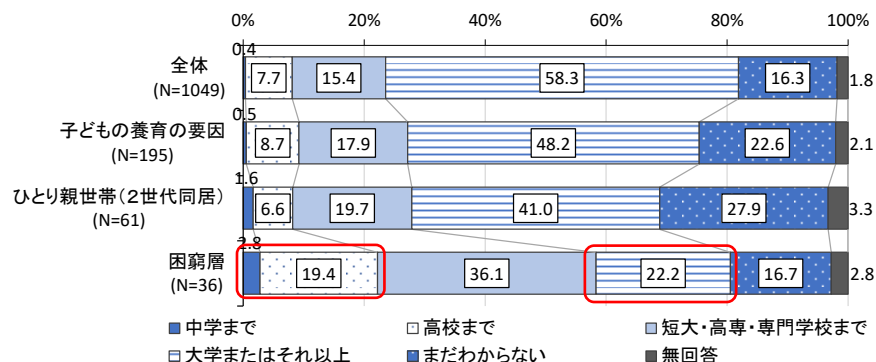
支援を通じた子どもの変化(続き)

- 中学校には行くことができなかったが、子どもの学習支援事業で高校入試の勉強をして、定時制高校に通えるようになった。先生(ボランティア)との関わりがよかったのだと思う。同年代はだめでも、ボランティアの先生とは話せる。まず、場所に馴染んでくる。ここに来て、**同じ人と同じような雰囲気の中で話せることで変わってきた**。「学校に行きなさい」と言われるだけだとまた違ったと思う。
- **「自分を大切に思ってくれる大人の存在」「頼っていいと思える大人の存在」を認知**できると、毎日の生活の営みのなかで、少しずつ子どもたちが変わっていく。子どもに対し、**もっと共感する、認める、たくさん褒めるなどを毎日繰り返し、関わり続ける**ことが、子どもの変化につながっていく。

3-5 子どもの進路・将来展望



将来、どの段階まで進学したいか(中学2年生)

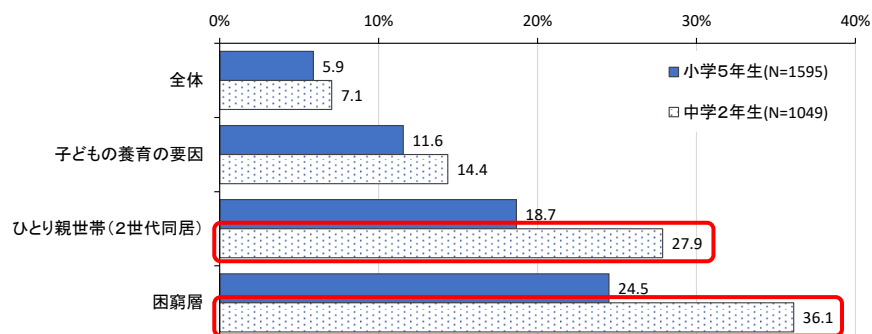


- 中学2年生が「大卒またはそれ以上」を希望する割合は全体が約6割であるのに対し、困窮層では約2割と低くなっている

3-5 子どもの悩み 家にお金がない



子どもの心配ごと、悩みごと - 家にお金がない(少ない)

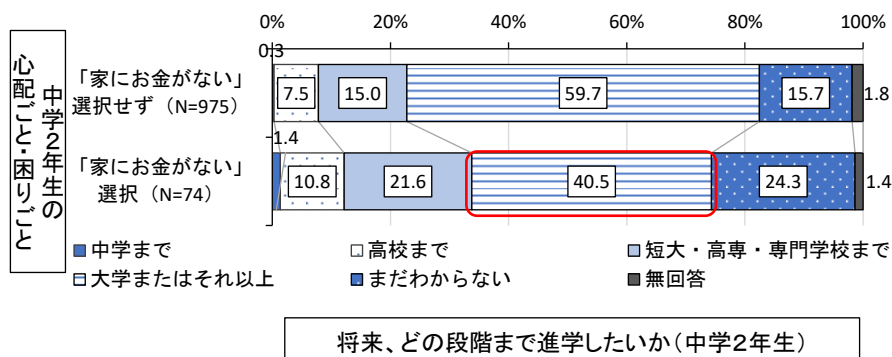


- 困窮層に該当する中学2年生の子どもの4割弱、ひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生の子どもの3割弱が、家にお金がない(少ない)ことを心配ごと、悩みごとと回答

3-5 子どもの進路・将来展望



「家にお金がない」悩みと、将来の進学希望(中学2年生)

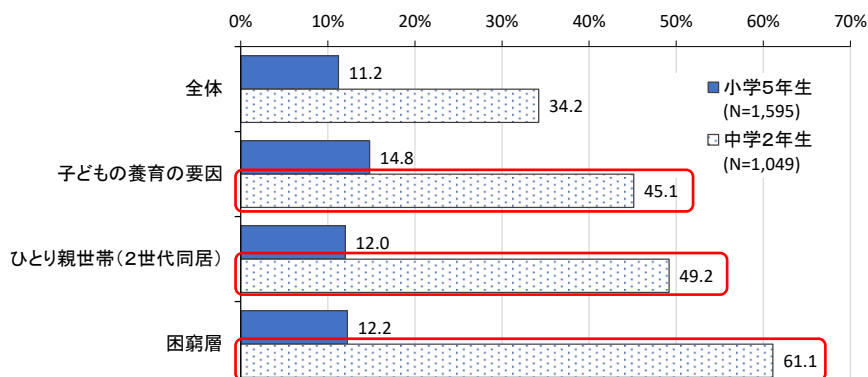


- 「家にお金がない」ことが悩みと回答した中学2年生は、「大学またはそれ以上」まで進学を希望する割合が低い

3-5 子どもの悩み 将来の不安

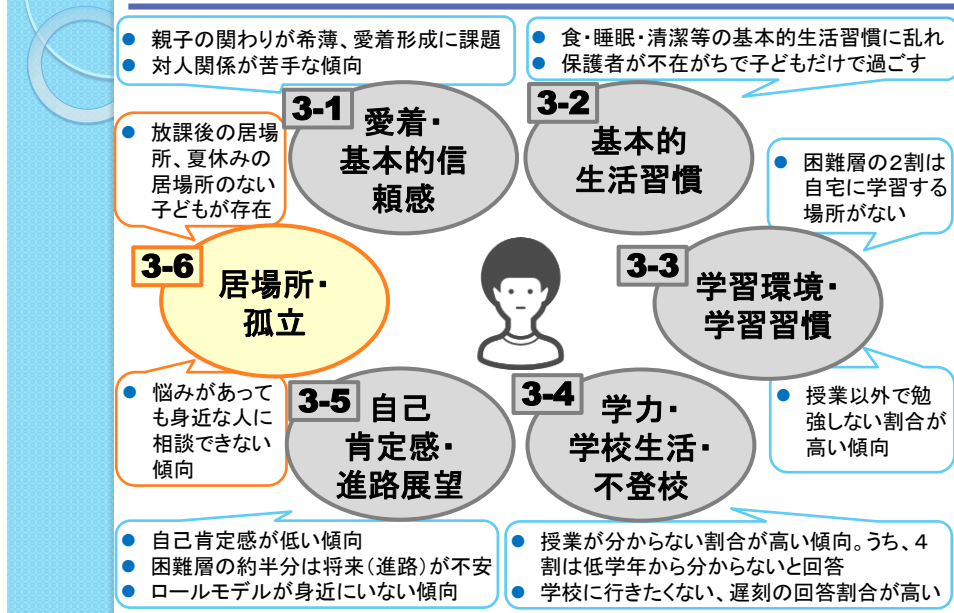


学校のことで困っていること — 将来(進路)のことが不安



- 困窮層の中学2年生の6割、子どもの養育の要因層とひとり親世帯(2世代同居)の中学2年生の約半分が、将来(進路)のことが不安と回答

3-6 子どもの居場所・孤立



3-6 子どもの居場所・孤立

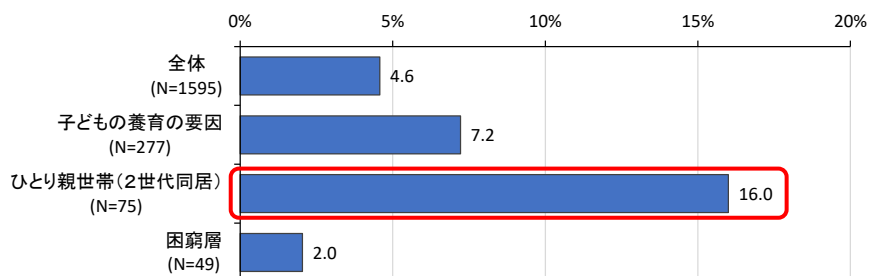
現状と課題の概要

- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生の6人に1人が平日の放課後をひとりで過ごしている
- 放課後の居場所がない小学校高学年の子どもや、経済的な理由から放課後にひとりで過ごす低学年の子どもが少なからず存在するのではないか
- 不登校など学校に通っていない子どもを含め、誰でも受け入れる地域の居場所が求められているのではないか
- 困難を抱える子どもは、父親・母親や学校の友達など身近な人に相談する割合が低い傾向にあり、悩みがあっても大人に上手く相談できない割合が高い傾向がみられる

3-6 子どもの居場所



平日の放課後をひとりで過ごす割合(小学5年生)

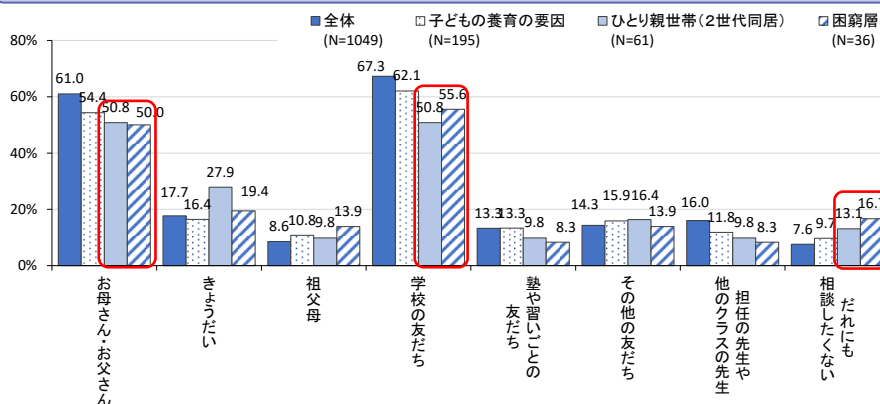


- ひとり親世帯(2世代同居)の小学5年生の6人に1人が、平日の放課後をひとりで過ごしている

3-6 社会的孤立・支援につながらない



いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談するか(中学2年生)

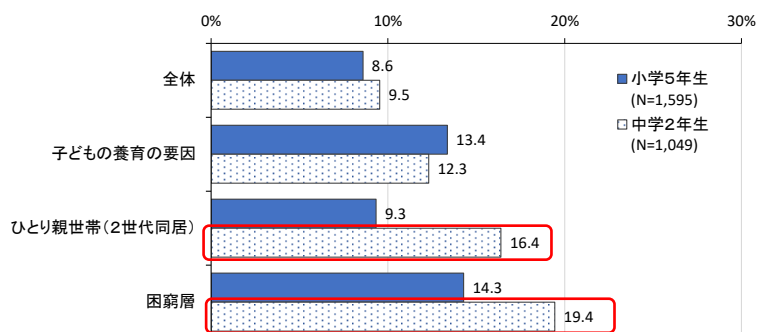


- ひとり親世帯(2世代同居)、困窮層の中学2年生は、「お母さん・お父さん」「学校の友達」に相談する割合が低く、「だれにも相談したくない」割合が高い傾向

3-6 社会的孤立・支援につながらない

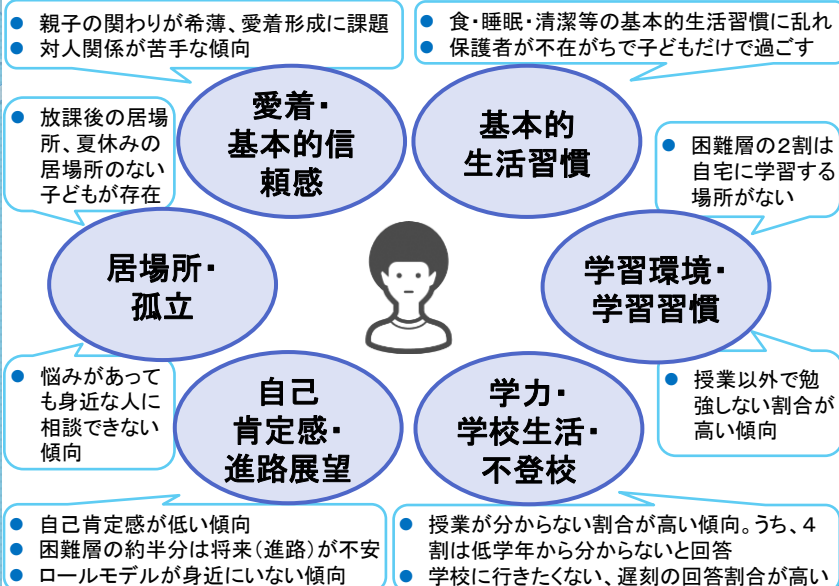


学校のことで困っていること(悩みがあっても大人の人にうまく相談できない)



- ひとり親世帯(2世代同居)、困窮層の中学2年生は、悩みがあっても大人の人に上手く相談できないと回答した割合が高い

3. 困難を抱える子どもの状況 まとめ



4. 保護者の状況

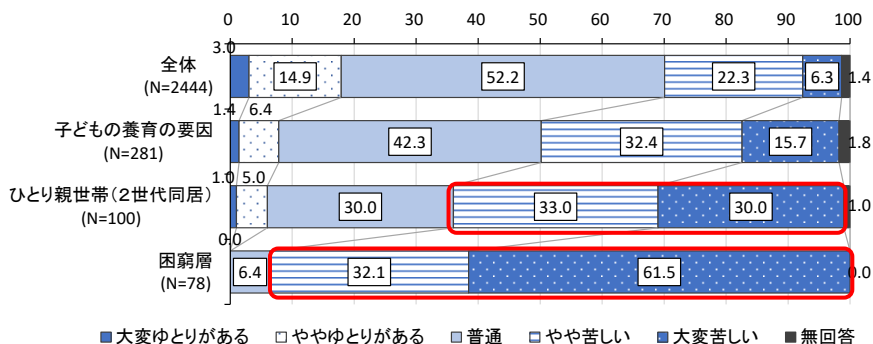
現状と課題の概要

- 困難を抱える子どもの保護者は、お金、時間、健康、心の面などの余裕がないのではないか
- 親のしんどさや、生活の余裕のなさから、十分な育ちの環境が整わない、子どもの体験や学びの機会が限定されるなど不適切な養育につながっているのではないか
- 困難を抱える子どもの保護者は、人づきあいが苦手、頼れる人が少ないなど、社会的孤立の傾向がある。支援につながらない、困難の連鎖の土壌となっているのではないか

4. 家計のひっ迫 暮らし向き



現在の暮らしの状況をどのように感じているか(5歳児保護者)

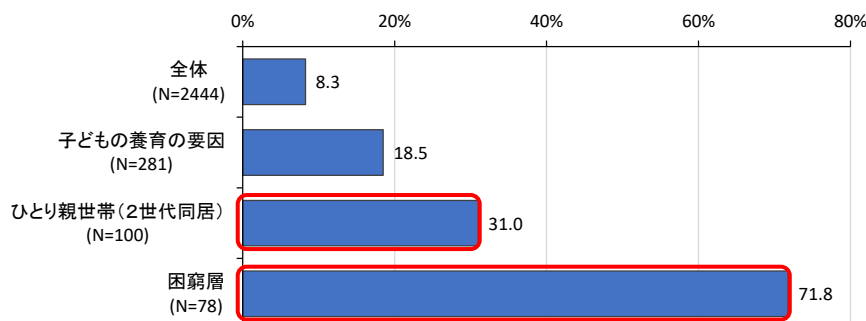


- 困窮層の9割以上が、現在の暮らしを「大変苦しい」「やや苦しい」と回答
- ひとり親世帯(2世代同居)の6割超が、現在の暮らしを「大変苦しい」「やや苦しい」と回答

4. 家計のひっ迫 貯金



急な出費のための貯金(5万円以上)がない割合(5歳児保護者)

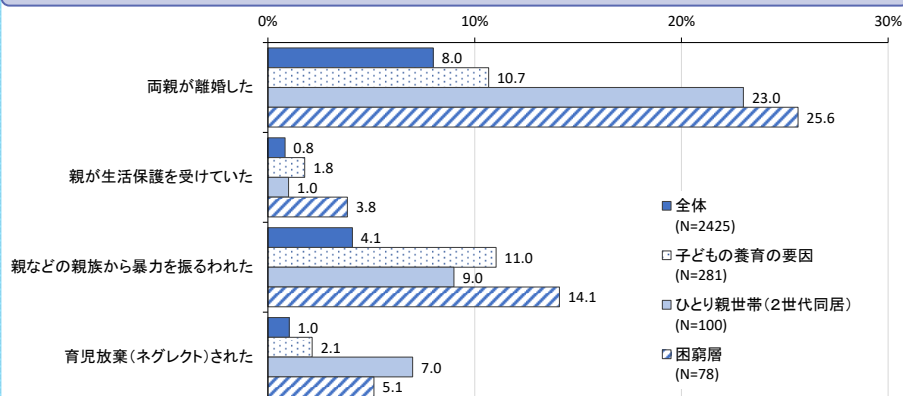


- 困窮層の7割、ひとり親世帯(2世代同居)の3割は、急な出費のための貯金(5万円以上)がない

4. 保護者の心の健康 過酷な経験



保護者が成人する前までの経験(5歳児保護者)

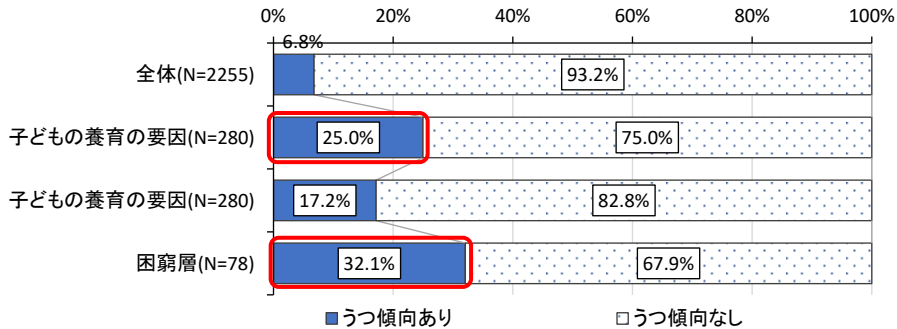


- 困難を抱える保護者は、両親の離婚、世帯の生活保護受給、親等からの暴力、ネグレクト等の過酷な経験があると回答した割合が相対的に高い

4. 保護者の心の健康 うつ傾向



うつ傾向のある保護者の割合(5歳児保護者)



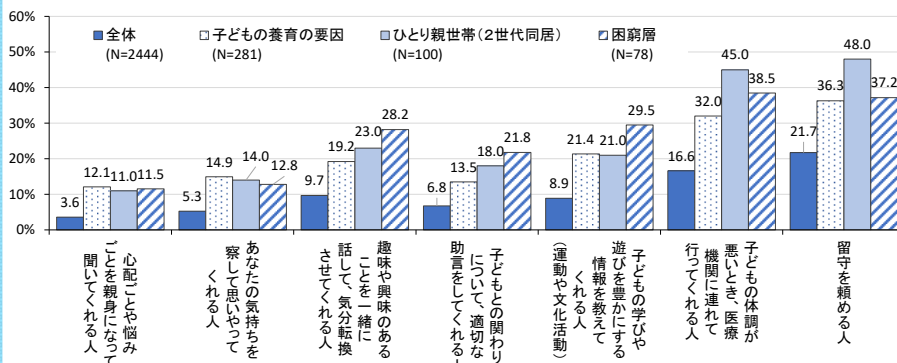
※過去1か月間の保護者の心の状態についての質問に対する回答状況から判定

- 5歳児保護者について、困窮層の3人に1人、子どもの養育の要因層の4人に1人にうつ傾向がある

4. 保護者の社会的孤立



同居家族を含め、支え手伝ってくれる人が「いない」と回答した割合(5歳児保護者)



- 子どもの養育の要因層、ひとり親世帯(2世代同居)、困窮層の保護者は、全体に対して、支え手伝ってくれる人がいない割合が高い

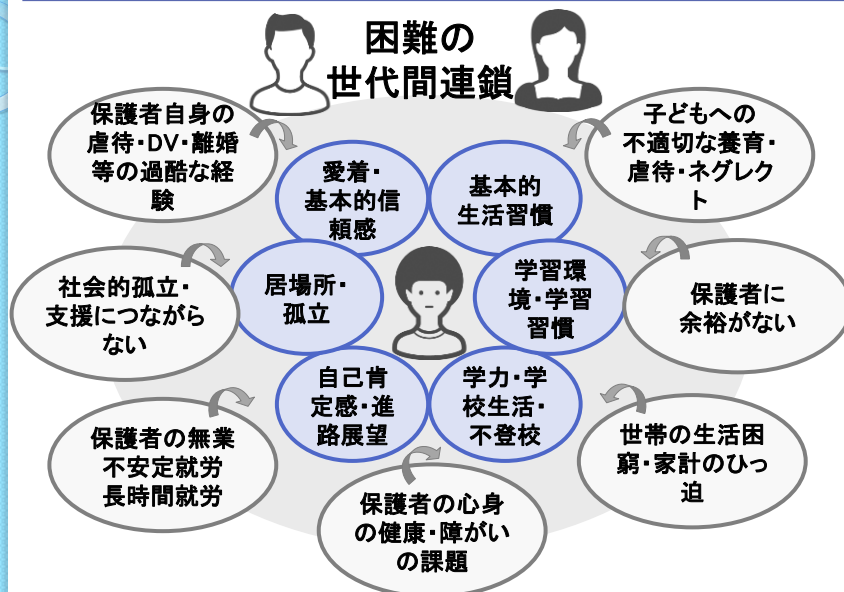
4. 保護者の状況 ヒアリング



支援者ヒアリングで把握した“あの子”“あの家庭”

- 個別事例では、保護者が、日雇い、深夜や早朝勤務、非正規就労でダブルワークなど不安定な就労であるか、障がい等が原因で無業である傾向がみられた。働いていても所得が低く、生活困窮の状態にある世帯(いわゆるワーキングプア)が存在
- 生活保護制度などの公的制度を利用していないが非課税世帯など、支援制度の枠外にいる世帯が、非常に厳しい状況にある
- 個別事例では、保護者等の家族が、重い疾病、うつ病などの精神疾患(疑い含む)、発達障がい(疑い含む)、知的障がいや身体障がいを抱える例が多く聞かれた
- 実親から虐待を受けたなど親族との関係が希薄で、身近に頼れる人が少ない。自分から「SOS」を出さない、相談に行く余裕がない、対人関係が苦手、保護者が支援を不要だと思っている等の要因から支援につながらない
- 課題を抱えていることが外側から見えにくく、また、個人情報の壁があり、早期発見が困難で必要な支援につながらない

4. 困難を抱える保護者の状況



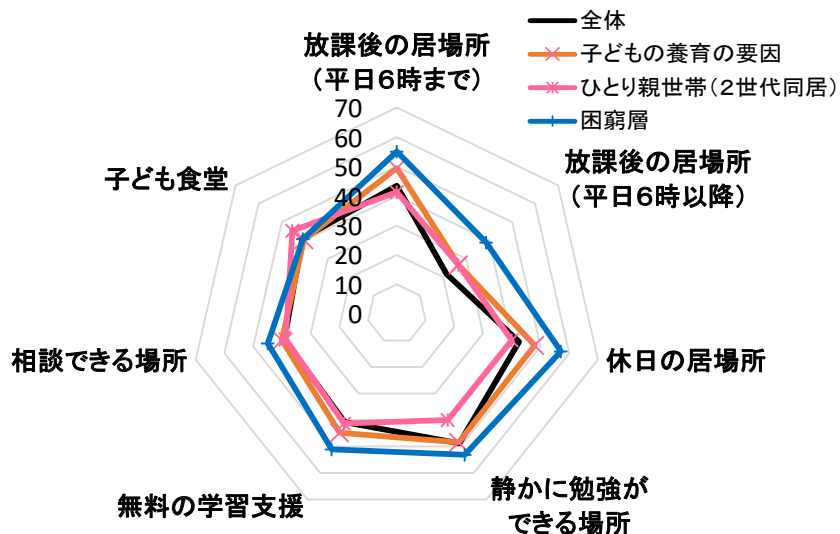
4. 調査結果から把握した課題 まとめ

- 困難を抱える子どもは、生まれ育つ環境の負の影響により、基本的信頼感、基本的生活習慣、学習習慣や基礎学力、自己肯定感など、子どもの発達段階に応じて身に付けていく力を獲得することが難しい状況に置かれているのではないかと
- 子どもだけでなく家族を含め、疾病や障がい、経済的困窮、生活習慣、学び、多様な経験の不足、低い自己肯定感、社会的孤立等、様々な課題を複合的に抱えているのではないかと
- 子どもの頃に厳しい環境に育った親のしんどさが、子どもに連鎖する傾向にあるのではないかと
- 子と親への「温かいまなざしとつながり」のあるまちづくりが求められているのではないかと

5. 今後必要だと考えられること

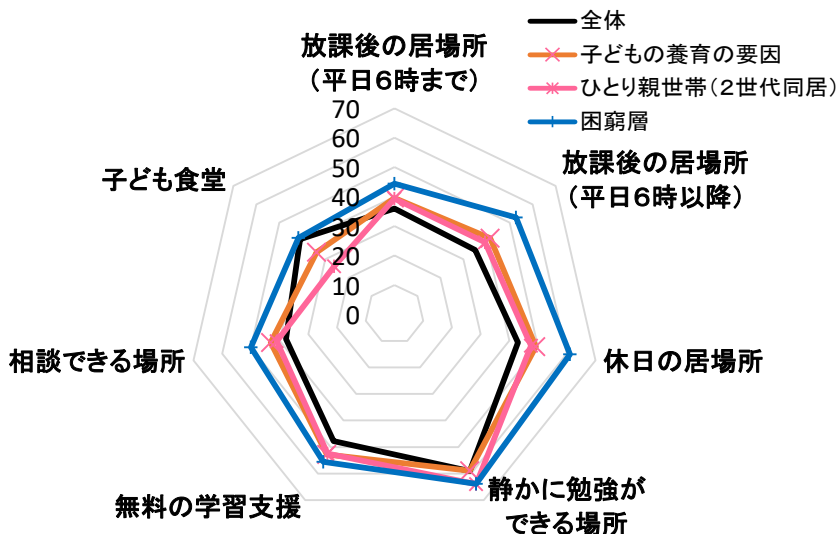
子ども、保護者のニーズ・
支援者ヒアリングからの示唆

5. 小学5年生のニーズ



※数値は「使ってみたい」「興味がある」を合計した割合

5. 中学2年生のニーズ



※数値は「使ってみたい」「興味がある」を合計した割合(%)

5. 小学5年生保護者のニーズ(自由回答)



小学5年生保護者の必要と感じる支援や要望(自由回答)

順位	自由記述の分類	件数(件) N=384	割合 (%)
1	学校の敷地内での子どもの居場所・学校の開放	44	11.5%
1	子どもの居場所(地域子どもの家、児童館、図書館、体育館など含む)	44	11.5%
3	学習支援・補習・学習できる場	31	8.1%
4	医療・医療費助成・健診	29	7.6%
5	子どもの教育費に関する悩み・支援	28	7.3%
6	公園・スポーツ施設・遊び場	27	7.0%
7	子育て世帯への経済的支援、家計の悩み	24	6.3%
8	給食・給食費	22	5.7%
8	子育てに関する相談・講座・仲間づくり	22	5.7%
10	障がい・発達障がいのある子どもへの支援、特別支援教育	21	5.5%
10	一時預かり・送迎支援(病児保育、ファミリー・サポート・センター含む)	21	5.5%

- 小学校5年生の保護者のアンケートの自由回答で、学校の敷地内での居場所や校庭の解放、すべての子どもが利用できる居場所への要望が強い

5. 支援者ヒアリング

これから必要だと思われること(抜粋)

- 地域の子ども・親の居場所(13件)
- 関係機関・団体の連携・協働(12件)
- 子どもや保護者との関わり方・関係構築(8件)
- 支援につながるための取組、SOSを出しやすい環境づくり(6件)
- 保護者の生活基盤、就労、金銭管理の支援(6件)
- 未就学児に対する保育等(5件)
- 子どもの多様な経験・ロールモデルと出会う機会(5件)
- 子どもの学習支援(4件)
- 子どもの食・生活体験の支援(4件)